

平成 28 年度 事業報告

I. 法人本部

平成 28 年度法人は創立 70 周年を迎え学園全体で祝賀会等記念事業を行った。この事業を通して学園創立の歴史認識や存在意義の再確認ができた。

1 今年度特に行った事業

(1) 創立 70 周年事業

- 1) 平成 28 年 10 月 1 日 記念誌発行 1200 部
- 2) 平成 28 年 10 月 15 日 「創立 70 周年祝賀会」 会場：スイートプラム
出席者 140 名
- 3) 平成 28 年 10 月 23 日 「創立 70 周年記念けいめいフェスティバル」
感謝状贈呈式（代表 4 名 贈呈者 64 名） 会場：学園グラウンド
- 4) 平成 28 年 11 月 6 日 卒園生・旧職員交流会 会場：学園丘の上ホール
参加者 卒園生・旧職員：112 名 学園職員：20 名
- 5) 平成 28 年 12 月 3 日 3 法人合同職員交流研修会 会場：箱根恵明学園
参加者 64 名

(2) 学園の将来計画について「虹の丘プロジェクト 2015」を 3 回開催。

2 継続して行った事業

- (1) 乳児部及び児童部ともに 11 月から 3 月にかけて第三者評価事業を実施。
- (2) ショートステイ事業を実施。
- (3) 地域交流事業を実施。
 - ① けいめいバザー 平成 28 年 5 月 22 日
 - ② けいめいフェスティバル 平成 28 年 10 月 23 日
- (4) 平成 29 年 3 月 10 日 地域交流研修会を開催 会場：学園丘の上ホール
「子どもの虐待を考える」～地域の子育て支援に必要なことは～
参加者 約 45 名
- (5) 平成 28 年 3 月 10 日 学園合同防災訓練
- (6) 広報活動としての学園新聞「恵明」を 7 月 15 日と 1 月 15 日の 2 回発行。

Ⅱ. 乳児部

《はじめに》

平成28年度は、小規模グループケア体制4年目となり、家庭的養育環境の充実を図った。各ルームの年齢構成は異なるが、それぞれの特徴を活かしながら、子どもたちとの生活を充実させることができた。本年度は、平均初日在籍数は、30.7名で、昨年度の33.4名と比較するとやや少ないが、年度当初の在籍数が昨年度より少なかったことが影響していると言える。

学園運営においては、年度当初の休職で新体制を急きょ変更することが、あり、その後の職員の充足が困難であった。養育室の配置不足により、看護師が養育室をサポートするという体制は整えられなかったが、職員間の連携により養育体制を維持することができた。

《本年度重点的に実施した事業》

1. 養育体制の充実強化と養育内容に充実

- ・家庭的養育を意識し、個々のルーム養育に独自性を持ち、さらに、子ども一人ひとりに適切な支援を目指し、養育をすることができた。
- ・「子どもにとって」という視点を、「虹色のやくそく」を指針として、考えることで、職員間の意識の向上や職員間を認め合うことにもつながった。
- ・看護師の業務をフリーの立場で養育を支える役割と考え、体制構築に取り組んだ。
- ・子どもそれぞれの体調に合わせて、嘱託医や医療機関に適切に通院を行った。
- ・防犯や緊急時の対応などについても意識を持って取り組み、避難訓練等リスクマネジメントへの取り組みを計画的に行った。

2. 職員の資質の向上及び研修

- ・「キャリアアッププログラム」については、リーダーを中心に部署ごとに実施をしたが、リーダー職員に対する定期的な面談の実施が難しかった。
- ・個別の研修については、職員の状況に応じた研修を計画したが、成果や研修後の振り返り等は不十分であった。
- ・産業医については、健康診断や個々の状況に応じて、面談をしてもらった。安全衛生委員会において、心の健康づくりの計画を提示したが、職員間での周知は不十分であった。
- ・ストレスチェックを実施し、セルフケアに活かせるよう取り組んだ。また、フィジカルケアの研修を行い、職員の心身の健康維持・増進への取り組みを行った。

3. 家庭支援と地域支援活動の充実

- ・10月以降家庭支援専門相談員を主任が兼務し他の支援スタッフと協力して対応することができた。
- ・保護者からの要望受けが15件挙げられた。通院や健診への同行、面会時間の要望などが多く、その都度検討対応し保護者にも説明をし苦情に発展するものはなかった。
- ・地域支援については、家庭状況が複雑な家庭も多く、子ども家庭支援センターとの連携を随時取りながら対応した。

4. 施設運営の改善と業務体制の整理

- ・勤務検討委員会の活動を通し、職員の勤務に対する意見等を収集し改善に取り組んだ。また、第三者評価を受審した結果を踏まえ、業務改善への意識や具体的な取り組みについて次年度に活かしていく必要がある。
- ・養育職員を中心に超過勤務について、数名の職員のデータを取り、現状の把握を行った。今年度の状況を踏まえ、業務の整理について取り組んでいく必要がある。
- ・「虹の丘プロジェクト」に参画し3回の会議を行った。後半期では、「地域貢献」への取り組み及び、あかりホームの改築など、概ね方向性が明確になった。

Ⅲ. 児童部

《はじめに》

平成28年度は、前半から中盤にかけて様々なトラブルが多く発生したが、職員が協力して、子どもたちの意見を上手に受け止め、一人ひとりの思いに応える等により高校生を中心に落ち着きが見られてきた。また、暴言暴力を許さない取り組みを小グループで行うことによって職員全体で連携と相互協力で改善が図られてきた。大学、高校進学は順調な結果を出したこともその一つであると言える。

職員は、中途退職・産休などにより勤務体制に困難があった。ただ、職員確保と人材育成に力を入れてきたことが退職職員の減少、29年度職員採用の成果につながった。これには、職員の協力に負うことが大きく、休日の増加等働く環境の整備がさらに大切なものとなった。

《本年度重点的に実施した事業》

1. “思いやりのある生活”については、昨年と同様に、まだまだ、十分な結果が得られておらず、職員の言葉がけ浸透するまで丁寧な取り組みが必要である。
2. 小規模グループケアの生活を充実のために
 - 1) 養育のスタンダードについて骨組みを作り組みに組むことにした。
 - 2) 携帯電話のルール検討を通して、子どもたちが自主的に考える取り組みができてきた。
 - 3) 子どもたちの中に自己判断、決定、行動ができるための実践が少しずつ展開できてきた。
3. 人材確保と人材育成の取り組みは大きな成果を上げた。
4. 労働条件の改善について
 - 1) 非常勤職員の賃金の見直しを行った。
 - 2) 平成29年度より公休を8日から31日月は9日に改善することにした。
 - 3) 住込み制度の検討はできませんでしたので、次年度の検討課題とした。

5. 施設内虐待など子どもの権利侵害がないよう取り組んだ。
 - 1) 「丘の上子ども憲章」を完成し、全職員に配布した。
 - 2) 全養協のチェックリストを利用して自己点検を行った。
 - 3) 子ども会議を定例化し、小舎やブロックでルールについて子どもと話し合いが増えた。
6. 学園の全体事業である「虹の丘プロジェクト2015」の参画し、3回の会議を行った。

《前年に続き継続して行った事業等》

1. 地域小規模児童養護施設「やまぼうしの家」「桐の家」を設置運営した。
2. 施設分園型「ひだまりの家」を設置運営した。
3. 専門機能強化型児童養護施設の指定を継続して受け、指定された事業を行った。
 - 1) 心理治療職による子どもたちの専門的ケアを行った。
 - 2) 児童精神科医による子どもたちへの心理療法と心理職員へのスーパービジョン等を行った。
 - 3) 職員の専門性向上の研修等を計画的に実施した。
4. 乳児院と共に青梅市、羽村市、あきる野市、福生市、瑞穂町、日の出町の6市町と各5名定員で委託契約を結び「乳・幼児のショートステイ事業」を実施し、441名お預かりした。
5. 「第三者サービス評価事業」を行うと共に「苦情解決委員会」を設置し、児童及び保護者へのサービスの質を確保するよう努めた。
6. 地域交流事業として例年同様「けいめいバザー」「けいめいフェスティバル」や「楽しく遊び隊」(年8回)「丘の上コンサート」(年4回)を行った。地域交流研修会を行った。